

【知事定例記者会見】 5月19日

- 佐賀県はこれまでコロナの間も常に先を見据えて布石を打ち続けてきました 様々な分野で新しい芽が出てきています

新型コロナウイルスは5類移行後、定点観測となった。現状、想定の範囲内で推移している。今後も注視し、変化が生じたときには、県民の皆さんに呼びかけたい。

コロナ禍の3年間、コロナ対策だけでなく、新しい芽が出るようにと様々な政策立案を徹底してきた。

まず、アリーナを含めたSAGAサンライズパークの整備。現地に足を運び、意見交換を重ね磨いてきた。コロナの最初の年は、甲子園や高校総体の予選が中止となる中、佐賀県はSSP杯（カップ）を開催した。未来を描ける、コロナ後につながる歩みを始められ感謝している。

OPEN-AIR佐賀を提案してきた。例えば、ナイトテラスチャレンジは、道路占用許可を取り、道路で飲食できるようにした。佐賀県が最初に企画し、全国に拡大。コロナ禍で、外での飲食が見直され、国の道路占用許可の基準緩和につながった。

また、アドベンチャーバレーSAGAを誘致、波戸岬キャンプ場をリニューアルした。今夏は、北山キャンプ場がリニューアルオープン、吉野ヶ里公園はアウトドアの聖地へと、令和6年度オープンに向け整備中。

県内の宿泊施設は、旅行代理店が企画する団体旅行向けの大広間がある施設が多かった。コロナ禍で、お客さんが少ないこの時期に、海外個人旅行（FIT）や富裕層市場向けに改造できるようチャレンジ交付金を創設した。優雅な空間をつくったり、子ども連れに仕様への変更、スイートルームやサウナ、各個室の露天風呂、大広間の個室化などに改修できた。

県の事業では、文化庁と連携し「黄金の茶室」を再現。吉野ヶ里遺跡は、日吉神社と調整が済み発掘中。嬉野ティーリズムでは、新しい価値を表現できた。

全国の宿泊稼働指数で、佐賀県は1桁を継続しているが、むしろ、ホテルや旅館不足が課題。

文化面では、コロナ禍で人が集まることができず、コンサートもできなかった。その影響は、出演者にとどまらず裏方にも及んだ。このままでは文化の火が消えてしまうと憂慮し、LiveS Beyond（ライブスビヨンド）の形に至った。配信に対する支援をすることで、PAの機材が良くなり音響効果が進化したと聞いている。

オンラインなら海外ともリアルタイムでつながることができる。コロナで閉塞する中、新しいチャンスの芽が生まれた。今後も発展させていきたい。

中小企業はコロナ禍で苦しみ中、新商品を開発する契機だと努力した。そこにチャレンジ交付金を助成。例えば、来店が少なくなった事業者が、キッチンカーを展開。SAGA サンライズパークや公園のイベントに、キッチンカーが集まるようになった。

企業が交付金を活用し、新分野に挑戦、生産性向上を目指すなど、苦しい中で先の時代を見据えた点に意味があった。

これまで、地球にやさしい循環型農業を推奨してきたが、輸入化学肥料が安価だったため広がらなかった。ところが、コロナで輸入化学肥料が高騰。堆肥を使う循環型に農業者が呼応し普及した。農業分野の構造改革となった。

佐賀牛は、肥育系が強く、繁殖系が苦手だった。他県の子牛を競り落とし、育てていた。牛の産婦人科とも言えるブリーディングステーションが、6月上旬に稼働。

併せて、高性能食肉センターも6月1日から稼働する。これまで輸出ができなかったEUやアメリカに、年末年始ごろには輸出できる体制が整った。

九州佐賀国際空港の観光案内所やラウンジ、物販エリアをこの時期を利用し改装。国際線のエリアも拡大した。

伊万里港は、ガントリークレーン2号機が供用開始。空港、港湾、道路などのインフラも3年の間に布石を打てた。

SDGsの観点からも車移動の社会から脱却したい。国の交付金を活用し、バスまるっとフリーDAYというバス移動体験を企画した。想像以上に活用してもらい、SAGAアリーナへの公共交通機関利用の布石になったのではないかと。来年1月にも実施する。

脱炭素社会への貢献や佐賀県の課題である高血圧や糖尿病の解決にもなり、健康の維持増進に寄与できる。

行動変容へと向かっているのか、バス利用者が前年比27.4%上がった。今後、フリーDAYがなくても、利用者が増えるよう期待する。

コロナで辛かった3年間に、佐賀の新時代を切り拓くためにまいた種を整理しお話しした。常に時代の先を見て、芽を育て、花開かせていきたい。

- 佐賀バルナーズ B1昇格が決まりました！！

バルナーズのB1昇格が決まった。6、7日を勝ち抜き、13、14日も連勝。県民とともにバルナーズの昇格とアリーナの誕生を喜び合えた。SAGAアリーナにとってすばらしい誕生となった。

5年前、SAGAアリーナの建設が決まり、チームができた。1年目は、練習場所の確保に苦勞した。社会人リーグ時代は、観客が関係者だけの試合もあった。富士町の廃校の小学校で練習し、試合は諸富体育館に出向いた。

2年目は、B3に初参戦。下位から徐々に順位を上げ、1位になったタイミングでコロナの感染が拡大。本来は60試合のところ、40試合でリーグ戦が打切られた。プレーオフがないまま、特例措置によりB2に昇格。

その後2年間は、西地区で3位と4位。プレーオフはアウェイのため、いずれも初戦での敗退が続いた。今年はいよいよ西地区1位でプレーオフに出場。

創設初期の挑戦の時代からみると、ソフトとハードがうまく融合した。みんなの気持ちをひとつにして成し遂げることができた。観客数も、当時からすると夢のよう。佐賀のSSP構想も含め、未来に向けての大きな一歩になった。

長らく九州にはB1チームはなかったが、今回、佐賀・長崎の九州2県がB1昇格。SAGAアリーナで20~21日にファイナルを開催。長崎ヴェルカ関係者、ブースターの皆さんには、公共交通機関の利用をお願いする。

B1制覇の夢を成し遂げるまで、佐賀県はこれからも応援していく。

- 偏見や差別、誹謗中傷のない佐賀県へ～ハンセン病差別への贖罪と学びを次世代へつなぐ～

ハンセン病の差別への贖罪と学びを次世代につなぐことが大事。隔離された方々は故郷にも戻れず、厳しい環境だったことは周知の事実。人は差別や偏見をもちやすい。コロナの中でも様々な誹謗中傷が起きた。それを繰り返さない強い思いが、佐賀県にはある。

今回、久しぶりに熊本の菊池恵楓園を訪問できた。最初の訪問で印象的だったのは、たまに出所する際に鳴っていたという希望の鐘の話。鐘は昭和44年まで鳴っていたが、さびて音が鳴らなくなっていた。県の方で再現させたいと、平成29年に希望の鐘を寄贈。志村自治会長は、自分の故郷からの思いに触れ、喜んでいただいた。浜玉中学校の皆さんは毎年訪問しており、園の皆さんも交流を続けたいとの意向を聞いた。

希望の鐘のメンテナンスは続ける。入居者が高齢化したので、園の皆さんの辛い思いを、私たちが県民の皆さんに引き継いでいきたい。

国は、初めて全国的な意識調査を実施する。調査結果を、偏見や差別の解消に生かしてほしい。SNSでの拡散で、今も差別や偏見に苦しんでいる人たちがいる。原点に立ち戻り、ハンセン病患者に対して、日本国民がどう対応したのかを考える必要がある。

志村自治会長と連携し、同じ過ちを繰り返さないために啓発冊子を作成し、学校に配付する。人があるべき姿を共有するために活用する。

問題を風化させず、同じ過ちを繰り返さず、人を大切にする県であり続けたい。

- SAGA2024を支えるボランティア Sagantier！（サガンティア）募集中！

締め切りは来年2月末。50年に1回のチャンス。若い皆さんも多くの得難い経験ができる。Sagantierは、一緒に大会をつくる大切な役割。ぜひご応募を。

- 赤ちゃんが生まれた全てのご家庭へ「さが子育てエール便」始めます！

この目的は、子育て中の皆さんに、県の様々なサポートが届くようにすること。ネットで「子育てし大県」と調べれば出てくるが、心に余裕がなく調べられない家庭もある。子育てに悩んだとき、その時期に応じて問い合わせる先がわかるリーフレットや佐賀らしいギフトと一緒にお届けする。

県内で誕生する子どもたち全員に、市町の協力で6月からエール便を送る。

- 17年ぶりにウミタケ漁が復活します

今年は雨が降らず、プランクトンが増え、ノリにとっては悪い環境だった。一方、直接的な原因は不明だが、ウミタケの成長が好調。アサリも良いようだ。

安定した漁獲を目指し、水産振興センターとともに取り組みたい。

- 九州クライミングベース SAGA 日本有数のスポーツクライミング施設が誕生します

SSPの施設としてクライミングベース SAGAが誕生する。スポーツクライミングは、ボルダー、リードとスピードの3種目。まず、ボルダーエリアが6月に完成し先行スタート。リードとスピードエリアは11月にオープンし、3つの種目がそろい、グランドオープンを迎える予定。

日本山岳・スポーツクライミング協会とも連携協定を結んだ。佐賀には、世界クラスの通谷選手・樋口選手がいる。佐賀から世界に向かうための拠点にしたい。